

建て物は世界一!

夢は無限に広がります

さて、どう使おうか

11月8日、大館地区多目的ドーム(仮称)の運営・利活用について市民団体がまとめた提言が、小畑市長へ提出されました。

世界最大の木造ドームとなる同施設は、平成9年6月の完成を目指して順調に建設工事が進んでいます。これによってハード面とともにソフト面の構築も本格的に始動したことになります。

近年、余暇の増大に伴って全国的にレジャーやレクリエーションに対する愛好が高まりを見せています。それに連れて、季節や天候に左右されずに活動できる場を求める声が多くなってきました。また、スポーツ・レクリエーションに限らず観光・産業等の分野においても、多目的に活用できる大空間の設置は大きな魅力になります。

「大館地区多目的ドーム」は、このような背景のもとで秋田県が大館地区に建設を進めているものです。この夏始まったドームの建設工事は順調に推移しており、完成が今から待たれますが、半面、膨大な投資をして得られる立派な施設を大館地区の住民・産業界・行政がどう活用していくのか、ということが大きな課題とされています。今回、利活用について提言したのは「大館地区多目的ドーム(仮称)活用推進部会(小畑敬三郎部会長)」と「大館地区多目的ドーム(仮称)等管理運営検討委員会(小笠原昭二座長)」、「大館市体育協会

(浅野福造会長)」の三団体。提言の要旨は次に示すとおりです。市ではこの提言を受け、ドームの設置効果を最大限に発揮するため、利活用にあたっての問題点を地区一丸となって解決していきたい考えです。

大館地区多目的ドームはその収容能力の大きさ、天候に左右されないといった特長のほか、世界最大の木造ドームであるという大きなインパクトを持つ施設ですので、運営方法によっては地域活性化の起爆剤となる可能性を秘めているといえます。その可能性を最大限に引き出すためにも、東北や全国にPRし、東北規模、全国規模の大イベントを開催、または誘致していかねばなりません。

また、ドームのオープン記念事業によっては、ドームの性格が単なる公共施設であるか、地域活性化の拠点となる施設であるかといった性格付けがなされてしまうものと考えられますから、特にオープン記念事業についてはある程度の投資を覚悟のうえで、思い切ったことをしなければならぬのではないのでしょうか。

ただ、イベントの成否は事前のPRと周辺市町村の参画にかかっていると云っても過言ではなく、大館市民あるいは周辺市町村の協力体制を整えることは絶対不可欠であるといえます。

「気軽にできる」スポーツと

「見せる」スポーツでの展開

スポーツ分野において、天候に左右されない屋内大空間を利用できるということは、周辺市町村の健康・レクリエーション・社会体育・生涯スポーツの振興等、その活動ジャンルの拡大に直結します。また、競技力のレベルアップやハイレベルな競技の観戦機会の創出等々、多大なメリットをもたらすものとして、ドームには大きな期待が寄せられています。

そうした中で、周辺市町村が気軽に使用できるような公益的運営と、「見せる」スポーツイベントの開催・誘致などの積極的な展開が強く望まれます。ドームを活用することで、今まで考えられなかったような展開を繰り広げるべく、新規事業の実施やビックイベントの誘致を図っていかねばなりません。

観光・産業の核に

ドームは、スポーツばかりでなく観光・商工業・農業など産業にとっても魅力のある施設です。

観光面から見ると、他市のドームは観光ルートに組み込まれて誘客に力を発揮していることから、当ドームも大館能代空港へ多目的ドームへ大館周辺の観光地へ十和田八幡平といった観光ルートを組み込むことで相当数の観光客が見込めます。また、商工業・農業の分野でも、青森、岩手、秋田のちょうど中心地となることを生かし、ドームを活用した多彩なイベントを組むことができます。

オープン記念事業の提案

◆サントリーモルツ軍団VS前年度の朝起き野球優勝チーム◆プロ野球2軍戦◆プロサッカーのサテライトリーグ戦◆コンサート(チャゲ&飛鳥など著名な歌手)◆NHK全国ラジオ体操◆大相撲地方巡業大館場所

ドームを利用した

イベントの提案

◆大相撲◆室内モトクロス競技大会◆東北夏まつりフェスティバル◆プロ野球・サッカー◆アメリカンフットボール◆オートキャンプ◆自動車ショー◆花博覧会◆全国ドームサミット◆全国木材工業展◆全国伝統工芸品大会